

贖い

tetsuphilo

はじめに

はじめに。

この本を選んでくださりありがとうございます。

今回の内容は少し濃いです。

もしも読み疲れたりしましたらどうか少し休憩をなさってください。

前回の本の最後に書いたようになんでも程々がいいんです。

幼少期

自分が幼少期の時の話です。年齢は、4～10歳くらい。

自分は、幼少期の時、友達が多かったですよ。

でも、耳鳴りというか、幻聴がひどかったですね。幻聴は18歳までずっとありました。

まあそれで、当然自分は変なことに気づいて親には言えなかった。

自分の親が過保護なので言ってしまうといろいろな病院に連れていかれて医者に薬漬けにされる

。

となると、言わないほうが安全だ。

まあそれは置いて、その時は平和でした。まだ、そんなにたくさんの不安がなかったからね。

でも、楽しかったわけではない。幼稚園、小学校の友達って今思うと誰も出てこない。

まあ、幼稚園の時は自分は塾に入っていたためか人気だった。

小学校に入ってから自分はスゲーやんちゃだった。

もう今じゃありえないけど殴り合いは当たり前だった。

でも、殴り合っても自分は悪いことではないなと思っていた。

当然、先生は怒りました。

家に帰ってからは、父親の暴力。母親は傍観者。その時はもう「この世界に生まれてこなきゃよかった」

ってずっと思っていました。

まず、殴ったって何も解決しない。

そんなのが理解もできないようなのは親じゃないね（笑）

殴れば何でも解決する。

自分は小学校の時にはそう思っていた。

でも、親も同じ事をしていれば

『あっ！これってしていいことなんだ！』

って自分は思った。親が殴って解決してるからね（笑）

まあ、そのあとには当然自分は怪我をしたわけですが、親は何て言ったと思う？（笑）

「このギプスについて聞かれたら、自分で怪我したって言いなさい」

（笑）バカ過ぎない？

もう自分はこの家から出ようとしたわけだね。

早くこんな家から出たい。

そんな思いをしていました。

まあ、もしこの本を両親が読んでいたとしても、あんな馬鹿どもには何も感じないんでしょう

。

なんせ、何も考えずに生きていたみたいだしね。

青春期

青春期です。年齢は、11～15歳。

自分は2011年、東北地震がありました。

自分は東京にいましたがすごく怖かった。

小学校を卒業してから中学に入った。

この時はもう最悪。

学校ではいじめられて、家では怒られて。。

もう今じゃ親のことただたんに隣人だと思っている（笑）

表面上では子供やってるけどね。戸籍上はね。。

学校では、先生は自分のことをいじめに近い行いをした。

そのころかな？

自分は逃げることを知った。

辛かったら逃げようとね。

もうそのころから、リストカット、ODしまくった。

でもなぜか死ねなかった。

自分は気づいた、こんなクズどもに死に顔見せてたまるかとね。

だから生きようと思った。

少しだけ。　そう少しだけ。。

中学を卒業してから高校に入った。

高校に入ってからやっと気づいた。

親は自分の腕の傷に。

やっとか。

でも。

こんな奴に行っても理解しねえだろうなと嘘を言った。

実をいうとこの本を書いている今も切ろうか迷っています。

はっきり言って。

あんな奴親って言える？

こんなに心をぼろぼろにして謝ってもくれない。

最後に。

本当につらいことがあったら、逃げなさい。